

＜壮瞥穴（そうべつあな）調査隊＞ 新団研が発足しました！

北海道の代表的な活火山「有珠山」、その東麓に広がる壮瞥町の市街地周辺（通称壮瞥盆地）では、毎年春になると興味深い現象が見られます。「壮瞥穴」と呼ばれる穴が畑や庭に突然開くのです。過去の有珠山噴火による埋没林が腐って消失し、地表に穴ができるのだと考えられていますが、その実態はまだわかっていません。昔は農耕馬の足がはまったり、時には人が落ちたりするなどの事故もあったようで、穴がそのまま保存されることはなく、すぐに埋められてしまいます。近年では穴ができたという情報も少なくなってきました。

そんな中、この現象に興味を持った地域住民数名から一緒に研究したいと声があがり、団研グループ「壮瞥穴調査隊」を結成することになりました。メンバーは地団研会員数名に加え、教育委員会の職員や郵便局員、農業従事者、地元の建設会社社員など多彩で、昨秋ころから LINE グループを使って情報交流しています。まだ具体的な活動は始まったばかりですが、団研結成を待っていたかのように、穴の出現情報が今年はいつもとより多めかもしれません。まずは町民を中心にこれまでの穴出現情報や、壮瞥穴に関するエピソードの収集を始めようと声を掛け合っているところです。

壮瞥穴の調査を通して、有珠山の火山噴火史や、壮瞥盆地の形成史などについても新知見が得られるのではないかとワクワクしているところです。今後の活動を温かい目でお見守りください。

連絡先：横山 光 yokh4123@hokusho-u.ac.jp



突然畑に空いた壮瞥穴
(2023. 1. 23 撮影)

＜岩見沢団体研究グループ＞

大きな成果が上がった春の岩見沢団研野外調査

2月から5月中旬にわたって火山灰の検鏡のために4回の室内団研を行い、何度も見直しようやく砂粒組成分析の成果がまとまりました。

そして満を持して、6月5日に樽前山南麓の覚生川（おぼっぶがわ）に予備調査に入りました。今回の調査地は立ち入りが制限されており、苫小牧砂防海岸事務所にご協力をいただき、上席治水専門官立ち合いのもと実施しました。樽前山からの泥流の発生等に備えた巨大な砂防施設が作られているため、立派な露頭がたくさんあり目移りするほど。そして、ありました！探していた火山灰！

6月8日に本調査として再び覚生川に入りました。日曜日にもかかわらず、上席治水官の方は、安全確保のための命綱まで準備して立ち会ってくださいました。

記載をして試料採取したあと、50kmほど車を走らせて模式地へ。見事つながりました！給源火山に少し近づいた感触。ともあれ大きな成果です。また、この日は、新しく地団研にも加わった大学生会員の野外調査デビューにもなり、火山灰がつながる瞬間を目の当たりに。めでたいことづくしの1日でした。

連絡先：金川和人 kanagawa@pop12.odn.ne.jp



覚生川沿いの大きな露頭



安全綱をつけて安全確保

＜箱根発生期団体研究グループ＞

最近論文作成に重点を置いているのもっぱら室内団研を中心に活動しています。しかしそれだけだと体がなまってしまうのと、野外で決着をつけたい課題もあるので、6月10日に久しぶりの野外調査の予定を組みました。しかし、天はわれらを見放したようです。その日だけ大雨が降るという予報が入り、調査はやむなく中止となりました。

梅雨だから仕方ないと思ったのですが、腹立たしいのはその日を除き、まるで梅雨明けのような日々が続いていることです。日頃の行いがよほど悪かったのですね、きっと。

さて今夏の活動は以下のようになっています。

7月1日（火）室内団研 池袋地団研本部

7月22日（火）野外調査 10時 御殿場線駿河小山集合

8月5日（火）、6日（水） 室内団研 11時～15時、

6日は終了後暑気払い

連絡先：宮城晴耕 smiyagi@kir.biglobe.ne.jp



地蔵堂付近にみられる夕日の滝
この付近に分布する箱根火山堆積物の最下部層である和田山層を流れ下り基盤の足柄層群畑沢層へ落下している。

＜設楽団体研究グループ＞

メンバーの都合をみて複数人集まることができれば、年中調査をしています。近年、設楽地域ではマダニやヤマビルが爆発的に増えています。そんなわけで、夏は虫や蛇の少ない沢筋を調査していました。ところが、流紋岩の活動形態がわかりつつある現在の調査は、マダニ、ヤマビル、ハチ、マムシの心配より、流紋岩の解明の可能性がある場所の調査を優先するようになりました。写真は乳岩東方の「天空岩」の流紋岩類で、標高160mから700mまで流紋岩類が続いています。春の調査なのでムシの心配はありません。体力的にきついだけです。



足元のリング状構造の内部は流紋岩、
外側は火砕岩。成因を解明中

今年は梅雨明けが早く猛暑といわれています。流紋岩の産状に興味のある方、快適な沢筋の調査を設定したいと思います(できるだけ)ので、参加を希望される方は連絡してください。

連絡先：吉村暁夫 pippi@ma.medias.ne.jp

＜島弧深部構造研究グループ＞

8月3日（日）13:00～17:00に、オンラインで島弧深部構造研究グループとネオテクトニクス研究会との合同研究集会（第17回島弧ネオテクト合同研究集会）を開きます。研究集会では最新の地殻変動に関する研究発表などをはじめとする個人研究の成果、日本列島の深部構造に関する情報やデータ紹介などもおこなっています。

連絡先：足立久男 q.adachi@outlook.jp

＜福島第一原発地質・地下水問題団体研究グループ（略称：原発団研）＞

2025年2月14日で団研発足から10年周年を迎えました。2021年7月末に専報61を出版、2022年7月末にはブックレット16を出版、そして2024年7月末にはブックレット18を出版しました。

原発団研では2025年10月18～19日に、対面式（18日はオンライン併用）で「2025年秋の原発団研」を開催する予定にしています。「2025年秋の原発団研」では、福島第一原発の汚染水・海洋放出問題の最新の状況を確認するとともに、浜通りで現地調査を実施する予定です。

連絡先：柴崎直明 nshiba@sss.fukushima-u.ac.jp

<朝日団体研究グループ>

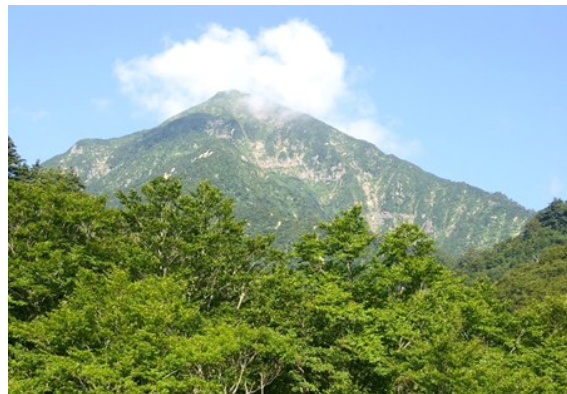
朝日山地の山と地質の紹介、第2弾

祝瓶山（いわいがめやま）は標高 1,417.0m で、朝日山地の南端部に位置する。山地では珍しく、独立峰に見える美しく急峻な山容で、日本三百名山に数えられている。東側の斜面は特に急峻で壁岩を含む露岩地が広がっている（右上の写真）。

地質は、角礫タイプと呼ぶ黒雲母花崗岩（従来のアダメロ岩）からなり、部分的に少量の角閃石を含み、一般に淡紅色のカリ長石で特徴づけられる。色指数は 5~8 で有色鉱物は緑泥石に変質していることが多い。中粒、等粒状の岩石で弱い面構造を示す。

朝日山地の花崗岩類は白亜紀後期の末沢川溶結凝灰岩を境に古期と新期に大きく分けられているが、角礫タイプは、68Ma の U-Pb 年代から、新期のなかでも最も古い花崗岩に当たる。その活動時期については、団研当初の 1970 年代から、非調和な分布形状と他の新期タイプとの直接の貫入関係が確認されていないことなどから、山地で最も新しいものと考えていたが、年代測定の結果から古いことが判明した。（文責：大坪）

連絡先：大坪友英 ohtsubo@tokyocivil.co.jp



東麓からの祝瓶山（2010 年 8 月 8 日撮影）



角礫タイプの黒雲母花崗岩（写真長辺 7cm）

<関東山地研究グループ> 夏の陣

期 日；7 月 30 日（水）～8 月 1 日（金）
集 合；7/30 下仁田町自然史館 12:00
内 容；調査マップ整理，サンプル整理，薄片作成
補充調査（南牧川本流など）
宿 泊；かぶら宿 1 泊 2000 円+α 学割あり
連絡先；保科 裕 mikabogreen@jcom.home.ne.jp

室内団研で堆積学の学習会を続けているが、前回の学習会では粗粒堆積物の堆積様式をモデル化した Lowe シーケンス（Lowe1982）の輪読会が終了した。このようなシーケンスモデルを念頭において、中ノ萱礫岩部層において、各露頭や粗粒岩相のひろがりを検討したい。



跡倉ナップ下底の衝上断層を新たに発見した。
＜春の陣 3/31＞

<関東平野西縁丘陵団研+関東山地研究グループ>

高校 SSH のフィールドガイド

6 月 1 日（日）に上記 2 団研で埼玉県立春日部高校のスーパー・サイエンス・ハイスクール（SSH）のフィールドガイドをおこなった。埼玉県西部を流れる入間川は飯能市付近で関東山地から関東平野へ流れ出る。平野側では鮮新-更新統の飯能層、山地側では北部秩父帯の砂岩、チャート、玄武岩（溶岩および火山砕屑岩）が分布する。その境界域で高校生 9 名（引率教諭 2 名）対象に、団研メンバー 3 名で対応した。飯能層に含まれる矢風テフラ層（層厚約 2m）や、遊歩道整備工事で出現した枕状溶岩の露頭を詳細に観察してもらった。生徒、先生方も熱心に取り組み充実した巡検となった。最近、教育現場で実際に地質を観察する機会は少なくなっているが、地団研の普及活動として取り組むことも重要であると肌で感じた。高田総会の「普及活動交流コーナー」でも紹介します。



枕状溶岩の観察

＜秩父盆地団体研究グループ＞

秩父盆地団研では、この2～3年は『秩父堆積盆地の発生年代について』というテーマで論文作成をすすめてきました。ほぼまとまったので、近いうちに論文投稿をする予定です。

その後の活動ですが、次のような内容の論文作成を予定しています。

『盆地南西縁部の構造発達史について』、『盆地北西縁部の不整合形成について』

前者をまとめるため、秋ころに野外調査を行い足りないデータを集約することを考えています。

団研としてやるべきテーマはまだたくさん残っています。それらをひとつずつ解決させていきたいと思っています。堆積盆地の発生過程について興味のある方は下記までご連絡をお願いします。

連絡先：岡野裕一（埼玉支部・県立所沢中央高校） 72okanoy@gmail.com



「秩父盆地南西部の賛川宿（にえがわじゅく）から見た秩父盆地の風景。高い山々は中生界の岩石類で構成されている。団研では今後、この南西部地域の中新統の補充調査を予定している。

明治11年（1878年）、地質学者ナウマンは賛川宿に宿泊し、そこから見た秩父盆地の風景について日本語で「セカイイチミハラシガスバラシイ」と言ったという。ナウマンも同じような景色をみていたのであろう。

高田総会での写真展募集（一部、修正もあります。ご確認ください。）

	「団研写真展」	「自慢の露頭 写真展」																		
募集数・単位	A4判 単独写真または組み写真（上限5枚）	A4判 単独写真または組み写真（上限5枚）																		
出品者	団研、グループ、団研に所属する個人	制限なし、海外の露頭也大歓迎																		
展示	1点ごとにラベル（タイトル、撮影者、コメント等）を付けて展示します。以下に「団研写真展」（左）「自慢の露頭写真展」（右）のラベルの一例を示します。左端のNo.は整理用で、係の方で付けます。																			
	<table><tr><td>No.</td><td>タイトル</td><td>八丈島一陥没体の壁沿いに歩く</td></tr><tr><td rowspan="3">15</td><td>団 研</td><td>八丈島地質調査グループ</td></tr><tr><td>撮 影 者</td><td>足立久男</td></tr><tr><td>コメント</td><td>海岸沿いに火山性陥没体の壁が露出。この地点にたどり着くには海食崖下の岩場の海岸を2時間ほど歩いていくほかはない</td></tr></table>	No.	タイトル	八丈島一陥没体の壁沿いに歩く	15	団 研	八丈島地質調査グループ	撮 影 者	足立久男	コメント	海岸沿いに火山性陥没体の壁が露出。この地点にたどり着くには海食崖下の岩場の海岸を2時間ほど歩いていくほかはない	<table><tr><td>No.</td><td>タイトル</td><td>千葉県君ヶ浜海岸でみられる低角斜交層理</td></tr><tr><td rowspan="2">F</td><td>撮 影 者</td><td>平社定夫</td></tr><tr><td>コメント</td><td>前浜に出現した露頭。1. 層理は、前浜の傾斜と平行に、海側に緩く傾いている。2. 上位のセットが下位を削り込む、右が海側。</td></tr></table>	No.	タイトル	千葉県君ヶ浜海岸でみられる低角斜交層理	F	撮 影 者	平社定夫	コメント	前浜に出現した露頭。1. 層理は、前浜の傾斜と平行に、海側に緩く傾いている。2. 上位のセットが下位を削り込む、右が海側。
No.	タイトル	八丈島一陥没体の壁沿いに歩く																		
15	団 研	八丈島地質調査グループ																		
	撮 影 者	足立久男																		
	コメント	海岸沿いに火山性陥没体の壁が露出。この地点にたどり着くには海食崖下の岩場の海岸を2時間ほど歩いていくほかはない																		
No.	タイトル	千葉県君ヶ浜海岸でみられる低角斜交層理																		
F	撮 影 者	平社定夫																		
	コメント	前浜に出現した露頭。1. 層理は、前浜の傾斜と平行に、海側に緩く傾いている。2. 上位のセットが下位を削り込む、右が海側。																		
	※作品は当日ご持参し、台紙に作品カードと共に貼り付け、展示してください。 当日参加できない方は、知り合いの方に託してください。 作品とラベルは両面テープで台紙に貼り付けます。台紙は画鋏で壁面に貼りつけます。 （台紙・テープ類は係が用意します）																			
申込・連絡先	〒359-1145 埼玉県所沢市山口 5001-27-1-207 正田浩司 e-mail:k.shoda@jcom.home.ne.jp Tel:090-6198-8019																			
〆 切	応募の〆切は8月15日(金) 作品ラベルの記載内容をお知らせ下さい (組み写真の場合、枚数もお知らせください。)																			
そ の 他	総会要旨集には掲載しません。会員による投票で賞を決めます																			

「団研写真展」作品は、「地学教育と科学運動」の「この一枚」欄へ、「自慢の露頭写真展」作品は、「地球科学」の「日本の露頭」や「フォト」欄への投稿をぜひよろしくお願いします。

- ・展示は 8/30（土）12:00 ～ 8/31（日）13:30. 投票 8/30（土）13:00 ～ 8/31（日）13:00、結果発表は 8/31（日）13:30 の予定です。
- ※8/30（土）12:30～13:30、出展者から簡単な作品紹介と交流の時間を設けます。（調整後、連絡します）
- ※団研写真・自慢の露頭写真ともに、単独写真または組み写真（上限5枚）のいずれかで応募して下さい。（組み写真の場合、各写真の説明はコメント欄に記載して下さい。）